カトリック高松教区報

2022年11月13日（第210号）
発行所 カトリック高松司教区 広報委員会
〒760-0074　高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659　FAX 087-833-1484
Email
教区:catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.jp
広報:tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成:yousei@takamatsu.catholic.jp
WEB　http://www.takamatsu.catholic.ne.jp/

マザー・テレサの言葉
短くて口に出しやすい言葉でも、心のこもった言葉はある。そんな言葉はいつまでも心の中に輝き続ける。

使徒ヨハネ　諏訪榮治郎司教退任

高松教区司教として目指していた宣教司牧の思い

諏訪榮治郎司教

私が東京カトリック神学院に入学したのは1966年（昭和41年18歳）、それは第二バチカン公会議が終了した翌年でした。この公会議は時代と社会が求めていることに応えるべく、巨大な船（教会）が舵を切って方向を変えようとした会議だったのです。心を弾ませ入学した神学院生活だったのですが、そこは何もなかったかのようにトリエント公会議（1545）の精神を生きることが養成の中心でした。言い換えると神学院は「規則を守る」ことを第一義とし、気づかぬうちに私たちは立派な「ファリサイ人」になっていったのです。5年が経ち、さすがに神学院の養成方針も変わり、第二バチカン公会議の精神、「掟」より「福音」を生きる息吹が神学院に吹き始めました。私たちの学年は「過去の信仰教育」と「新たな霊性」をあわせ持つことになり、当時の教会にはそれが必要で、神様から与えられた「役割」として自覚していたように思います。実のところ当時の日本のカトリック教会は第二バチカン公会議をあまり理解していなかったのです。それを心配した時の教皇ヨハネパウロ二世は日本を訪れ（1981）教会を励まし、続いて聖マザーテレサも来日され「愛の宣教」を証しされたのです。司教団はそれに応えるべく「日本の教会の基本方針と優先課題」を公にしたのです（1984）。その中に「福音宣教推進全国会議」の実施計画がありました（英訳の頭文字をとって「NICE・ナイス」と呼ばれました。）。事前準備をもって「開かれた教会」をテーマに全教区から信徒、修道者、司祭の代表が一堂に集いました（1987・1993）。画期的な「ナイス」は「開かれたキリトの教会」になるために次の「3本柱を調和して生きる教会」の姿を明確に打ち出したのです。柱1「生活に根づいた信仰」、柱2「福音宣教する共同体」、柱3「社会の現実と共に生きる教会」、これによりすべての教区が「3本柱」を生きる「教会づくり」に向け動き出しました。そんな中1995年、直下型大震災（阪神淡路大震災）が起こり、神戸にある教会は現地救援本部となり、復興支援活動と「教会づくり」を重ね合わせ、多くの方々との出会いを通して、福音がなんであるかを学ばせていただいた10年は司祭としての幸いなことでした。その流れの中で、高松教区に派遣されたこと（2005）を神の計らいと思っています。

「ナイスの3本柱を生きる」「ダイナミックメモリー」「福音マーケット」などの養成コースをともに歩ませていただきました。社会の中で多くの人々とともに「開かれた教会」づくりの途上にありますが、司教として皆さまと共に歩めたことを心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

これからもよろしくお願い申し上げます。

「福音のよろこび」邦訳を教皇に渡す

愛媛での司牧者ソフトボール大会、浜口司教へプレゼント

空位の間の教区管理者はイスマエル・ゴンザレス神父に

諏訪司教の司教職引退に伴い（2022年9月26日）、教区顧問会は、教区の統治権をもつ「教区管理者」としてイスマエル・ゴンザレス神父（坂出教会）を推薦し、同師の信仰宣言をもって任命いたしました（2022年10月31日）。

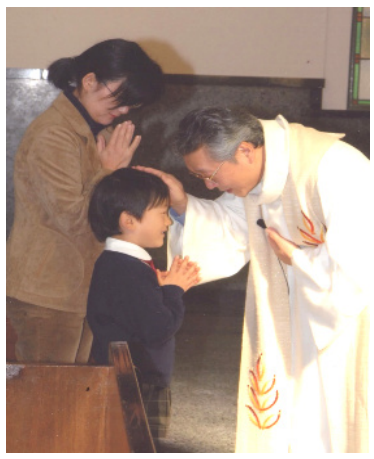
司教座の空位にともない、これまでの司祭評議会は消滅し、その任務は顧問団によって代行されます。次期司教は着座から1年以内に司祭評議会を設置することになります（教会法501条―2）。

諏訪榮治郎司教の経歴

生年月日：1947年（S22年）7月8日（現在75歳）
（学歴）
1977年3月　東京カトリック神学院卒業
（叙階）
1976年11月23日　大阪教区司祭・叙階
　　田口枢機卿
（宣教歴）
1977年4月　園田教会
　　英知大学
1979年4月　香里教会
1981年4月　夙川教会
1982年4月　大阪カトリック神学院院長
1989年4月　高槻教会
1977年～1994年　大阪教区内ミッションスクール宗教科講師
1995年3月　阪神淡路大震災　住吉教会
1997年4月　中山手・下山手・灘教会
　　カトリック社会活動神戸センター長
1999年1月　神戸中央教会
　　（神戸東ブロック共同宣教司牧チーム）
2005年7月　高松教区　江ノ口教会
　　宣教司牧チーム

2011年6月19日　カトリック高松司教区・司教叙階
2022年9月26日　司教職退任

神学生３年時


七五三の祝福

番町教会での平和コンサート

はばたき

瀬戸内国際芸術祭の大島会場に出かけた。お目当ては鴻池朋子さんの作品「逃走階段（エスケープルート）」。

ハンセン病療養所大島青松園のある大島は、高松市屋島の鼻先に浮かんだ小島である。ここには、昭和8年に若い患者たちが作った1・5キロメートルの散策路「相愛の道」があり、「逃走階段」は、その道から崖下の浜へ降りる石組みされた階段で、閉じようとする島の地形から生き延びるための新たな道を表現している。「相愛の道」を切り開いた患者たちにも、島という拘束された場所から自力で道を切り開くという思いがあったという。

大島での逃走は開所以来珍しくなく、風のない海の静かな晩は「逃走日和だ」と挨拶代わりにしていたとのこと。しかし、屋島の鼻先とはいえ離れ小島である。逃走方法は、小舟を盗むか、昼間に近くの漁民にお願いして夜に迎えに来てもらうか、自力で海峡を泳ぎ切るか、3つのうちのいずれかだった。

作品から何を受け取れるか・・・暗闇で道なき崖を降り、砂浜で船を待つか暗い海に飛び込むしかなかった患者達の気持ちを想像するのは難しいことだったが、こわごわ崖の階段を降りた時、帰り際に崖の上から波打ち際を見下ろした時、少しだけ、離れ小島に閉じ込められることの不安・恐れを感じた。

諏訪司教様へ たくさんの感謝を込めて

「オヤジさん」のように

番町教会担当司祭　高山　徹

「高山さん?」それが、当時の教区養成担当だった諏訪司教様が、神学校入学前の私に最初にかけて下さった言葉でした。実は初めて司教様にお会いしたのはもっと以前―2005年、私がまだ大学生だった頃、仙台教区の仲間たちと高知の中島町教会での青年の交流会に参加した折―でした。それからの17年の月日は、諏訪司教様の四国での17年と重なります。さらに今から40年以上も前に私の家族が職場で、司教様のご指導を頂いたことがあったことを伝え聞き、御摂理を感じずにはおれません。

2011年、諏訪司教様が高松教区の司教となられた頃、私の教区神学生としての志願手続きが始まりました。司教様は、「神学校に推薦するために、あなたについて教えてください」とおっしゃって、熱心に私の話を聞いて下さいました。そして「うん、あなたに召命がある気がするわ」と言われました。ただ、これからの歩みについては、「あなたは、〝ぺっしゃんこ〟に潰れてしまう体験を必ずするでしょう。でも、〝ぺっしゃんこ〟になった紙の裏と表のごとく、その体験を通して恵みも知るでしょう。」と諭してくださったのです。

その後の私の歩みは、神学生時代も叙階後も、果たして司教様の言われた通りになりました。その時その時、いつも司教様は私を見守って下さいました。司教様は教区の様々な課題解決のために尽力されましたが、まだまだ未熟な私は助けとなるどころか心配をかけてばかりだったと心から申し訳なく思っております。また、「のんびり屋」の私は歯がゆい思いを司教様にさせてしまったのではないかと反省することしきりです。司教様は、―こういう言い方は何ですが―「オヤジさん」のように、私を叱り、励まし、忍耐をもって受け止め、様々なことを教えて下さいました。心から感謝いたします。本当にありがとうございました。

最後になりましたが、司教様は阪神淡路大震災で被災された際、多くの被災者の方々に寄り添い、復興のためボランティアの人々と共に率先して働かれたと聞き及び、諏訪司教様のダイナミックな一面を垣間見る思いです。どうかこれからも、司牧者として引き続き私たちと共にいて、知恵を授けてください！

忘れ得ぬお姿

宇和島教会　一信者

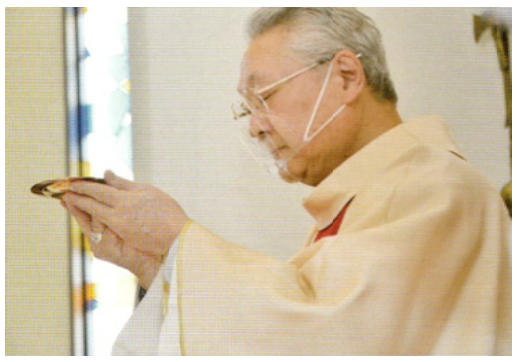
2018年7月の西日本豪雨災害は南予地方に深い爪痕を残した。

当時の宇和島教会担当司祭のヨゼフ郷文成神父は直ちに現地（吉田町）入りし、大きな被害を被った信徒宅を訪問し、諏訪司教様にご報告した。諏訪司教様は3月に司祭に叙階された高山神父を伴って、すぐさま信徒K氏宅に開設されたボランティアベースを訪れ、被災した信徒に会って力づけ、カリタスからの義援金が届くよう計らって下さった。その信者のご長男は心を動かされ、ミサの侍者を務めるようになり、助けられた恩返しをすべく自衛隊に入り、災害派遣などに貢献するための研鑽に励んでいる。

思えば、1995年阪神淡路大震災の時も、当時神父として大阪教区におられた諏訪司教様は、神戸市の3つのカトリック教会の復興のために、靴を何足も履きつぶしながら歩き回り、信者を力づけ、絶望に陥らないよう日々祈っておられた。

傷ついた葦を折ることなく、暗くなってゆく灯心を消すことなく、信者の心が神さまから離れないようにとの諏訪司教様の思いは、高松教区長になられてからも全く変わることはなかったと思われる。弱っている方々に常に寄り添い、また大きな行事がある時には、皆の心がバラバラにならぬよう、常に主にある一致を説いて下さった。

ご聖体拝領のあとに、いつも述べられた「ここにはイエス様しかおられません。」というお言葉を常に思い起こし、被災された信者の手を握り、共に祈られたお姿を忘れないようにしたい。



ここにおられるイエスとともに

諏訪司教様に感謝

江ノ口教会　井戸瑛子

11年間に及ぶ司教職の激務をこなされました。ありがとうございました。その司教職に先立ち、高知地区長として又カトリック江ノ口教会担当司祭として2005年より5年間司牧して下さいました。

高知着任後間もなく当時の諏訪神父様は「聖書・信仰講座」を江ノ口教会に開講されました。私はその講座に第2回目から参加致しました。当時私はまだ未信者でした。未信者でありその上勉強不足であるが故に、理解できない事柄が多々ありましたが、嬉しいことに質問の時間を頂けました。質問を大歓迎して下さった事をしっかり記憶しています。お答えは私のような全くの初心者でも理解できる程度から始められ、さらに発展させてのものでした。私にはその発展回答が難しい事が度々ありましたがそれでも感謝でした。その講座の始まりと終わり時には皆で聖歌を歌う事が常でした。流れるようなギターの音色に伴われて私達は歌いました。勿論奏者は諏訪神父様（当時）です。私達は導かれて歌えました。「テゼ」もしっかり教えていただけました。やがて私の突然の受洗願いにも拘わらず諏訪神父様（当時）は即座に行動、あっという間に無事に洗礼式に導いてくださいました。

信徒達のただ中でキビキビ活動されていたお姿も思い出されます。目の不自由な方を講座後送り届けられていた事、同じような行動が出来そうな人に別の人へ援助のお願いをされていた事、絵手紙教室に積極的参加をされていた事、制作されながら参加者との会話を楽しまれていた事。作品はシンプルであたたかみのある画風でした。

「歌うこと」は「祈ること」です、と不勉強な私は、後に知りました。司教様として江ノ口教会で何度かミサ司式をされた折、聖歌、お唱え、合間から静かに祈りの空気が伝わりました。

落ち着かれたら小さな教会に住み、祈りの巡礼者のように（テゼの祈り等を通して）四国をめぐる司牧活動を考えられている、とお聞きしました。お待ちしています。

一人一人の思い出

小豆島教会

小豆島教会では、昨年10月から半年間、入院された松永神父様に代わって、司教様が来て下さり、私たちにとって大きなお恵みでした。感謝をこめて、一人一人が思い出を書いて送ります。◎ギターの名手司教様の伴奏で、一緒に歌わせて頂きたかったです！◎自転車をこいでいる姿、ご自分で造られたすばらしい自転車！カッコよくて、若い印象。◎お洒落な司教様で、ギターもとても上手です！◎世界の出来事についてお話をお聞かせ下さり、よく理解できました。教会は人の心を救って下さる場所と思いつつ、いつもミサに来させて頂いています。◎司教様とはゆっくり話す機会がなかったのですが、ミサの後オラトリオに行く時、いろいろお話ができて、すごくやさしい司教様だとうれしく思いました。◎ユーモアのある接し方、話し方にホッとする時もあり、でも難しい教え、考え方にはなかなか理解できず・・。でも感謝です。◎分かり易い説教をありがとうございました！再会を是非！◎特に去年の堅信式では、子どもたちのためにありがとうございました。◎ミサに飢え、心が渇き切った私達。司教様のミサは喜びに満たされ、どんなに癒されたことでしょう。又、ギターを弾きながら、歌われる魅力的なお声、是非もう一度拝聴したいものです。◎洗礼を戴いて日の浅い私は、福音マーケットで考える事を教えていただき、教区大会で、他人の為に祈る事を教えていただきました。◎優しく話しかけてくださって、握手してくださったこともあり、とてもうれしかったです。◎シノドスの分かち合いの最後に、司教様は、「みなさんは、一人一人旅をして、ここまで来たんです。そして、旅の終わりは誰にもわからない。ただ、今この教会で共に旅をしていることをたいせつにしてください。」と言われました。

多田俊輔君、宗輔君の堅信式

私たちは今、司祭不在で物置みたいになった司祭館を、みんなでワイワイ片づけています。共に旅をすることは、苦労もあるけど、楽しいものですね。

思い出のスナップ写真

丸亀教会　太田　修

平成27年3月14日（土）午後6時から、丸亀カトリック教会に於いて各小教区担当司祭及び各教会から参加した信徒が列席の元、諏訪司教様から荘厳な司式の中で次の方々が任命され、聖体奉仕者認定書と集会祭儀司式者認定書を授与されました。

丸亀教会＝本田誠一郎氏、竹本孝氏、太田肇子氏、坂出教会＝曽我部輝子氏、梅木正氏、Sr合田慶子氏、善通寺教会＝多田繁夫氏、今回は以上の7名で少ない司祭の補助的な役割を担って、奉仕の精神で頑張って頂きたい。各氏は新たな気持ちで認定書を受け取られたことでしょう。

諏訪榮治郎司教様の教え

松山教会　岩本麻里子

諏訪司教様が高松教区に来られて高知で司牧されていた頃、教会学校教師研修会が高知で開催された時、高知駅まで車で迎えに来てくださり会場まで送って頂いたのが初めてお目にかかったと思います。とても気さくで、関西弁の司教様に親近感を覚えました。

また子どもの集い等での子ども達に接する姿も思い出されます。それから数年後、高松教区司教に着座されてからも松山に来られた時など以前のままの気さくな司教様にお会いできてとてもうれしく思いました。そんな中で私が諏訪司教様に教えて頂いたことは、社会の中でカトリック教会の役割とは何かという課題に気づかせてもらった事です。8年前ですが、諏訪司教様のご紹介で香川ダルクの代表が松山教会に訪ねて来られました。これをきっかけに松山教会はダルクと関わる事になりました。その活動の中でダルクに繋がりたいと教会に電話があったり、訪ねて来られる方の対応をする事で教会は直接、依存症当事者の助けになる事はできなくても、次に繋げる窓口の一つになる事はできるかもしれないという事に気づきました。またダルクの具体的な活動内容を知る事で、信仰を持って生きる私たちとよく似ている一面がある事を知る事が出来ました。また私たちはダルクを支援するだけではなく、教会清掃等でダルクに助けてもらう事で共に生きる仲間になれたらと思っています。諏訪司教様が繋げてくださったご縁で教会と社会の繋がりについて考え、祈り、行う事の大切さを教えて頂いたと思います。2年前に司教様にも名称決定に参加して頂いたカフェスタイル

のオアシスも出来ました。教会は信者だけでなく、神様に導かれた人が気軽に来られる場所になっていけたらと思います。諏訪司教様もこれからお時間ができたら是非、松山教会に「遊びに」来てください。お待ちしております。

諏訪司教様に温かく見守っていただきながら歩んできた西条教会とこれから

10月2日のミサの後にフェルナンド神父様から諏訪司教様が退任されるというお話を聞いて西条教会が驚きと悲しみに包まれました。

私が西条教会に通うようになって10年が経ちますが、その間に私の家族、そして教会に通う信徒全員を愛で包んで下さった司教様、そして西条教会が耐震問題に直面し建て替えが必要になった時に、西条教会に来て親身になって相談に乗ってくださった司教様、コロナ渦の中でたくさんのメッセージを発信して私たちを元気づけてくださった司教様。

西条教会にとって司教様は常にそばにいて下さり、西条教会、そして信徒の家族を暖かく見守ってくださる素晴らしいFatherでした。

さる9月11日に諏訪司教様が来てミサをしてくださるということで信徒全員で喜んでおりましたが、西条教会建て替えの際に聖堂がいっぱいになることはないよね、いっぱいになったら嬉しいよね、それが夢だよねと皆で話をしてたことが一瞬で叶いました。フィリピンの信者さんが大勢来てくださり、全員座れないほどお聖堂が一杯になったのです。私たちのささやかな夢がかなった一日となりました。

西条教会は、小さな教会なのでこれまで大きなことはできていませんが、司教様に見守っていただいたおかげで明るく楽しくいろいろな問題を前向きに乗り越えてこられたのかなと思っております。これからも少しづつ成長していく西条教会を温かく見守っていただけたらと思います。

'22.3.20 献堂式のミサ

'13.11.10 堅信式

'19.8.4 ご来西時のお茶会

'22.9.11 ご来西時のミサ

諏訪司教様スカウトたちにも分かりやすく

番町教会　八尾憲治

私が、初めて諏訪司教様にお会いしたのは、大阪教区から高松教区に来られた時でした。それから、司教様はすぐ高知に赴任されました。その時、ボーイスカウトで、青春切符で四国一周の旅をするという過酷な計画が浮上しました。高松から普通電車で、昼夜かなりの時間乗り続けるというものです、私は、サポート役を買ってでて、中間地点の高知でゆっくりさせたいと思い、事前に諏訪神父様に、江ノ口教会のはまゆう会館に泊まらせていただけるようにお願いしました。快く了解を頂き、当日は朝早くに高知に行って、疲れたスカウト達をもてなすために、はまゆう会館での宿泊や高知名物の皿鉢料理などを準備しました。翌朝、中島町教会におられた諏訪神父様が、わざわざスカウトのためにと江ノ口教会に来てくださり、ちょうどその日がクリスマスだったこともあって、スカウトたちに「イエス様が、なぜ馬小屋でお生まれになったのか」という話をされました。スカウトは皆未信者だったのですが、やさしくわかりやすい言葉を選んで話されました。誰もが来られるようにと、あえてみすぼらしい所でお生まれになったという話を聞いて、スカウトたちは、よりイエスさまを身近に感じたと思います。諏訪神父様が、高松教区の司教になられると聞いて、私たちスカウトは、より身近に感じることのできる司教様という思いがしました。それからは、毎年、CBS（カトリックボーイスカウト）の高松教区支部総会にも参加していただきました。

昨年、番町教会の評議会議長となってからは、コロナ禍でのミサのことや、番町教会100周年記念ミサ、その他のいろいろな事を相談しに行って、少々？困らせたことと思います。

これからも、お元気で。そして、たまには飲みに行きたいなと思っています。

今はなき祭壇にて 80周年を祝ったあの日

八幡浜教会　一信者

2017年9月26日、1936年に小教区として独立した八幡浜教会が、この日80周年を迎えました。台風襲来のために研修会などのイベントは中止となりましたが、諏訪教区長と聖ドミニコ会マリアノ地区長とともにミサがささげられました。今は亡き松永神父も遠路お越しくださいました。小さな共同体のミサではありましたが、2名の堅信の秘跡授与のために教区長ミサを司式してくださり、小さな聖堂を厳かな荘厳さで満たしてくださいました。

今はなき聖堂と今は亡き司祭とともに

地区・ブロックの話題

～愛媛地区～

愛媛地区南予ブロック堅信式
使徒ヨハネ諏訪榮治郎司教様による最後の教区長堅信式

宇和島・八幡浜教会

2022年9月4日（日）、高松教区長使徒ヨハネ諏訪榮治郎司教様をお迎えし、愛媛地区南予ブロック宇和島において、八幡浜教会との合同の堅信式・初聖体の秘跡授与が行われました。この9月26日に、教区長を退任された諏訪司教様にとって、最後の堅信式となりました。

6名の堅信の秘跡と、5名の聖体の秘跡を受ける方々が諏訪司教様からお認め頂き、秘跡の恵みに浴することができました。中には大きな苦難を乗り越えてこの式に臨んだ青年もおられたので、喜びはひとしおと思われました。

『わたしは弱いときにこそ強いからです。』（コリント第二12章10節）という聖書の句を思い起こしました。

南予ブロックの担当司祭であるアシジのフランシスコ申繁時神父は、昨年、11月に創立百周年を迎えた宇和島教会と創立86年の八幡浜教会と、いずれも長い宣教の歴史を有する両協会が、息切れすることなく持続的に宣教の恵みに預かるよう、様々なご指導を下さっています。シノドスに向けた意見の集約や教会行事の活性化、聖書の学びの深化、日曜学校の再興などです。信徒の積極的な参加を求めることで教会の一員としての自覚を促し、次世代への円滑な橋渡しができるようにとのご配慮です。

この堅信の秘跡は、当事者の方々にはもちろんですが、共同体にとっては、「信仰を成長させ、教会の担い手となる」ために共同体の一員としての責任と自覚を覚える不可欠のステップです。それぞれの信者が自らの役割と責任を意識する良い機会であったと考えます。

今回私たちは、高松教区を11年半に亘って導き、四国の南西隅である南予ブロックのことをいつも気に懸けて下さり、力強い言葉と優しい歌とで絶えず祈るよう励まし、信徒一人一人の名前を憶えて下さった諏訪榮治郎司教様にお目にかかって御礼の気持ちをお伝えすることができました。教区長最後の堅信式となったことは、神さまの計らい以外の何物でもなく、心からこの恵みに感謝したいと思います。そして、これからも諏訪司教様がご健康で、私たちの傍にいて下さることを願っています。

新居浜教会の改築

新居浜教会聖堂と幼稚園舎の改築経過と見通しは、次の通りです。2022年5月1日のミサが旧聖堂最後のミサとなりました。この日記念撮影が行われました。5月8日以降は、新居浜修道院で日曜日朝9時30分より主日ミサが行われます。毎日の早朝ミサは、6時30分です。フェルナンド神父さまは、近くのマンションから司式に向かいます。小教区事務機能も同マンションに仮住まいです。今後は、2023年3月末に司祭館と聖堂跡地に園舎が完成し、園が引っ越しを行った後に、6月頃園舎跡地に新聖堂が建設される予定です。無事に建設が行われますようお祈りください。

ありし日の懐かしい新居浜教会聖堂と園舎

～西讃ブロック～

こころ新たな堅信式

丸亀教会　太田肇子

令和4年10月16日（日）丸亀教会においてミサの中で、丸亀教会、善通寺教会から6名の方々が諏訪司教様から堅信式を授かった。善通寺教会からは歌川誠一さん、丸亀教会からは、中尾舞花さん、斎藤渚生さん、ドウーン・ヴィゴリンさん、プリンセス・サンチェスさん、プリンセス・カリエドさん、レイナ・メンドザさんの皆さんが、それぞれ代父、代母立会いの下、多くの信者や友人たちが見守る中で厳粛な気持ちで、司教様から受けた按手で、改めて信仰の喜びと深さを味わった事でしょう。

これからの信仰生活の上で、改めてカトリック信者としての自覚を持ち豊かな人生を歩んで頂きたいと思います。

新典礼への取り組み

新しい式次第によるミサが、待降節第一主日から始まります。小教区での準備状況をいくつか紹介します。

番町教会

10月2日ミサ後テキストとして「祈りの手帖」を基に、主に変わった箇所の読み合わせをしました。時間にして15分位なので詳しい説明はありませんでした。今後ミサ後に高山神父の説明がある予定です。

三本松教会

毎回のミサ後に10分程度、西川助祭が解説をしています。

桜町教会

森神父が、説教の際、式次第が新しくなった理由などを説明（広報誌に掲載）されました。ミサ式次第冊子を信徒全員に配布して、11月6日ミサ後に全員で読み合わせします。

小豆島教会

11月第一日曜日ミサ後に高山神父から説明を受け、みんなで読み合わせる予定です。

松山教会

10月までには定着した勉強会はまだ行っていませんが、11月6日（日）10時から川上神父から新しいミサの説明会があります。

道後教会

11月20日（日）ミサ前に「ミサ式次第【会衆用】簡易版」を使って、ミサの流れを司祭から解説していただく予定です。

今治教会

8月28日（日）から主日のミサの前に15分くらいの研修会を行っています。

新居浜教会・西条教会

新居浜教会では、現在評議会で検討を重ねており、「ミサ式次第【会衆用】簡易版（光明社）」に第二奉献文を印刷して末尾に挟み込み、10月23日（日）ミサ後に、これを用いてガイダンスが行われる予定です。西条教会には毎週木曜日フェルナンド神父が滞在されています。

尚、新居浜教会と隣接する愛光幼稚園は、現在改築中にあるため、多忙な中での新式次第ガイダンスとなっています。

宇和島教会

10月2日のミサ後に1時間をとり、申神父から丁寧に変更に至る経緯と変更箇所の解説がありました。待降節からの新しい典礼が楽しみになりました。

八幡浜教会

9月11日（日）ミサ後に申神父から1時間ほど改正点について、説明があり、10月8日（土）夕方の主日ミサ前に信者会で読み合わせをしました。

日本人の信者は「ミサ式次第【会衆用】簡易版（光明社）」が共同体から配布され、「キリストとわたしたちのミサ・新式次第版（サンパウロ）」を各自が購入しました。また典礼担当者用には「ともにささげるミサ：新訂版　ミサ式次第・会衆用（オリエンス宗教研究所）」を配備しました。

またベトナム人参加者のためには、CTICカトリック東京国際センターから11月に発行されるベトナム語新しいミサの式次第を入手予定です。

尚、高松教区からは「新しい「ミサの式次第と第一～第四奉献文」の変更箇所」が配布され、参考にしています。

◇教区スケジュール◇

11月
- 1日（火）諸聖人
- 2日（水）死者の日
- 3日（日）文化の日
- 5日（土）拡大宣教司牧評議会
- 8日（火）司牧者懇談会
- 6日（日）年間第32主日
- 13日（日）年間第33主日　貧しい人のための世界祈願日
- 20日（日）王であるキリスト　聖書週間（27日まで）
- 23日（水）勤労感謝の日
- 27日（日）待降節第1主日
- 30日（水）聖アンデレ使徒

12月
- 3日（土）聖フランシスコ・ザビエル
- 4日（日）待降節第2主日
- 7日（水）経済問題評議会
- 8日（木）責任役員会　無原罪の聖マリア
- 11日（日）待降節第3主日
- 18日（日）待降節第4主日
- 25日（日）主の降誕
- 27日（火）聖ヨハネ使徒　福音記者
- 30日（金）聖家族

訃　報

聖ドミニコ修道女会
シスターベルナデッタ渡部マツ子

1948年7月23日　愛媛県伊予市に誕生
1966年4月10日　郡中教会にて受洗
1968年4月05日　聖ドミニコ宣教修道女会入会
1970年10月10日　初誓願　宣立

その後聖マルチン病院付属看護学院、さらに国立療養所香川小児病院付属看護学校を卒業し、優れた看護師として、坂出の聖マルチン病院で41年間、また、小豆島の特別養護老人ホーム「マリアの園」の看護師として6年間勤めました。

今年4月に松山修道院に赴任し、聖堂係や看護係を担当し、高齢者や、病める人、弱い人に対し、心を込めて温かい世話にあたられていました。

彼女は「教皇フランシスコの事務室の入り口に貼っている言葉『嘆き禁止・あなたと他の人々の人生がより良いものとなっていくように、自ら行動しなさい』という言葉にひかれ、毎日これを実践するように努めています。」と話していました。亡くなる当日までお元気に姉妹のお世話をしていましたが、夕方体調が悪くなり、救急車で県立中央病院に運ばれ、医師の懸命な救命処置にもかかわらず、急性心臓死により、8月28日18時12分に74歳で神の国に召されました。52年の修道生活でした。

松山修道院聖堂にて、8月29日にお通夜、30日に葬儀ミサが行われました。

彼女の安らかに憩われますように！

番町教会創立百周年記念ミサ行われる

10月8日、諏訪司教司式により、番町教会創立百周年記念ミサが執り行われました。ブロック内外から約百人が参加し、共にミサを捧げました。

また、会議室には沢山の写真が飾られ、番町教会の歴史が紹介されました。

番町教会百周年に寄せて

佐藤万里子

多くの方々の熱意と周到な準備で百年記念の行事、ごミサを無事に終えられた事を有難く思います。私は番町教会に通って10年にも満たないので、この文を書くのに適任だろうかと迷いました。

私が初めて教会に行った時に優しい笑顔で「ようこそ！」と近付いて下さる信者さんがいらっしゃいました。そして小澤征爾みたいな髪型の仙人のような雰囲気の松永神父様がいらっしゃいました。神父様はいつも穏やかで余計な事は何も言わず。でもしっかり受け止めて支えて下さいました。迎え入れ、受け入れることはとても大切だと思います。

番町教会の良さは、神父様の慈しみのような居心地が良い温かさではないでしょうか。

数年前に賄いの方がお休みでたまたま私が神父様方のクリスマスの夕食を用意することになりました。あの夜の食卓で池田神父様と松永神父様は何を語られたでしょうか。お二人のお姿を百年記念のごミサで見られなかったのは寂しい限りです。でも私はあの夜の光に「しっかりしなさい」と励まされる気がいたします。

当日のごミサではお聖堂で祈られた方々の歴史の重さを感じて身が引き締まりました。

新しいページをめくった今、日々祈りそして研さんを積み真理を求める先輩方と共に、変化する時代の中で生き続ける教会の道を探して行けたらと思います。

番町教会百周年をお祝いして

片山弘子

好天に恵まれた10月8日、番町教会創立百周年記念ミサが行われました。お祝い行事の序章は、実行委員の方々が集められた数々の歴史ある写真や資料、又ゆかりの方々とのお話を編集された力作の記念誌でした。戦争など様々な困難を乗り越えられた先人のご苦労、ご努力があってこそ今日がある、と感謝の気持ちを新たに致しました。当日展示された写真や資料、ボーイスカウトの活動の歴史などを興味深く見せて頂きました。

記念のごミサは諏訪司教様の司式のもと司祭団の皆様、県内外から信徒の皆様を大勢お迎えして厳かに執り行われました。司教様の「百年は長く感じられますがキリスト教二千年の歴史を思う時これはまだスタート、教会活動の存続こそ大切です」とのお言葉には私達信徒の今後の責任を痛感いたしました。

この日を何より楽しみに待っていらした松永神父様とご一緒にお祝いできなかった事が本当に残念でした。私達は「コロナがなければ・・・」とつい愚痴ってしまいますが「しょうがないねぇ」と仙人の笑顔で微笑んでいらっしゃる神父様が思い出されました。荘厳なごミサ、豪華なお花で飾られた教会、沢山の写真、豪華にレイアウトされた神父様のコレクションのイコンなど天国からご覧になって下さいましたか？「皆よくやってくれたね、よかったよ」とのささやくようなお声が聞こえてきそうでした。

私はこの記念の日にハンドベルの仲間に入れて頂き、河合さん、佐藤さんのご指導のもと心を一つにして演奏できた事は大きなお恵みでした。佐藤さんがまとめて下さった「カノン」は聖堂の高い天井に美しく響きました。尾崎さんのグレゴリオ聖歌の澄んだ歌声には一同魅了されました。ごミサのオルガンのほかにフルートや歌声が流れて聖堂はひととき和やかな雰囲気に包まれました。

実行委員会の皆様のはじめ、全ての準備に当たって下さった方々に心より感謝申し上げます。

地域に根付く番町教会らしさを大切に、これからも発展されますよう、また神様の豊かな祝福がありますようにお祈りいたします。

中段は会議室に飾られた写真、下段はハンドベルの演奏

百周年記念ミサの
Youtube配信